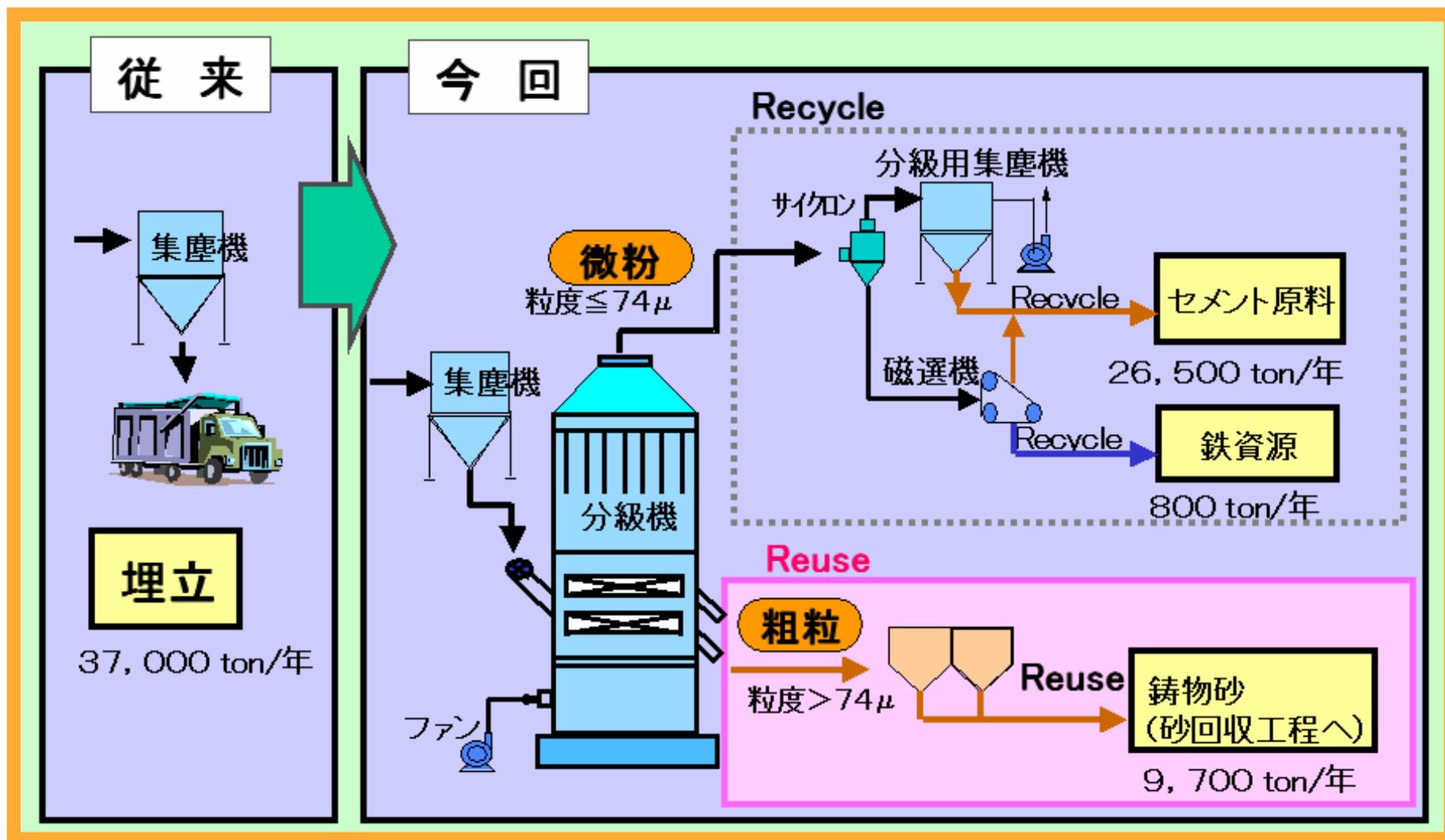


# 生産段階での廃棄物低減対策事例

## 鋳物集塵ダストの分級再使用



# 使用段階での3R事例 中古部品の活用

## 中古部品の需要も増加傾向

■ リビルト部品と新品部品の供給実績概要(2002年度)  
(個)

品名	リビルト部品	新品部品
オートマチック トランスミッション	18,200	210
ターボチャージャー	160	2,100
パワーステアリング	17,100	16,100
トルクコンバーター	6,400	5,200

\*リビルト部品:分解・洗浄した上で必要に応じ部品を交換するなどして、新品レベルの品質確認を行った部品。

出典:トヨタ自動車



出典:本田技研工業

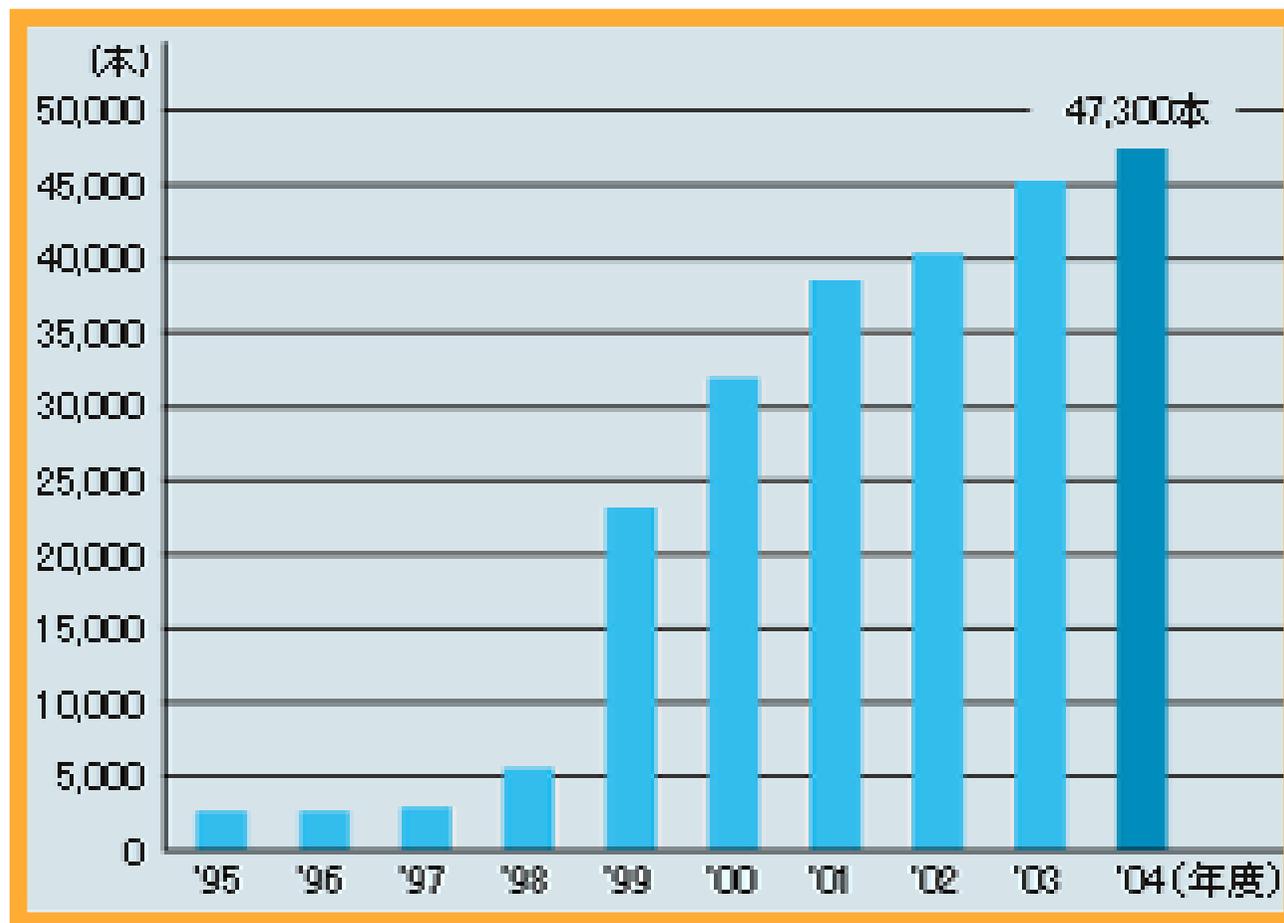
100万円( )は指数

	補修部品仕入れ	中古部品
2000年	1,830,300 (100)	95,500 (100)
2001年	1,844,900 (100.8)	100,000 (104.7)
2002年	1,712,800 (93.6)	1,06,000 (111.0)
2003年	1,733,800 (94.7)	1,12,000 (117.3)
2004年	1,802,300 (98.5)	1,20,000 (125.7)

出典:自動車部品卸売業に関する調査(株)矢野経済研究所より作成

## 使用段階での3R事例 バンパーの回収・再利用

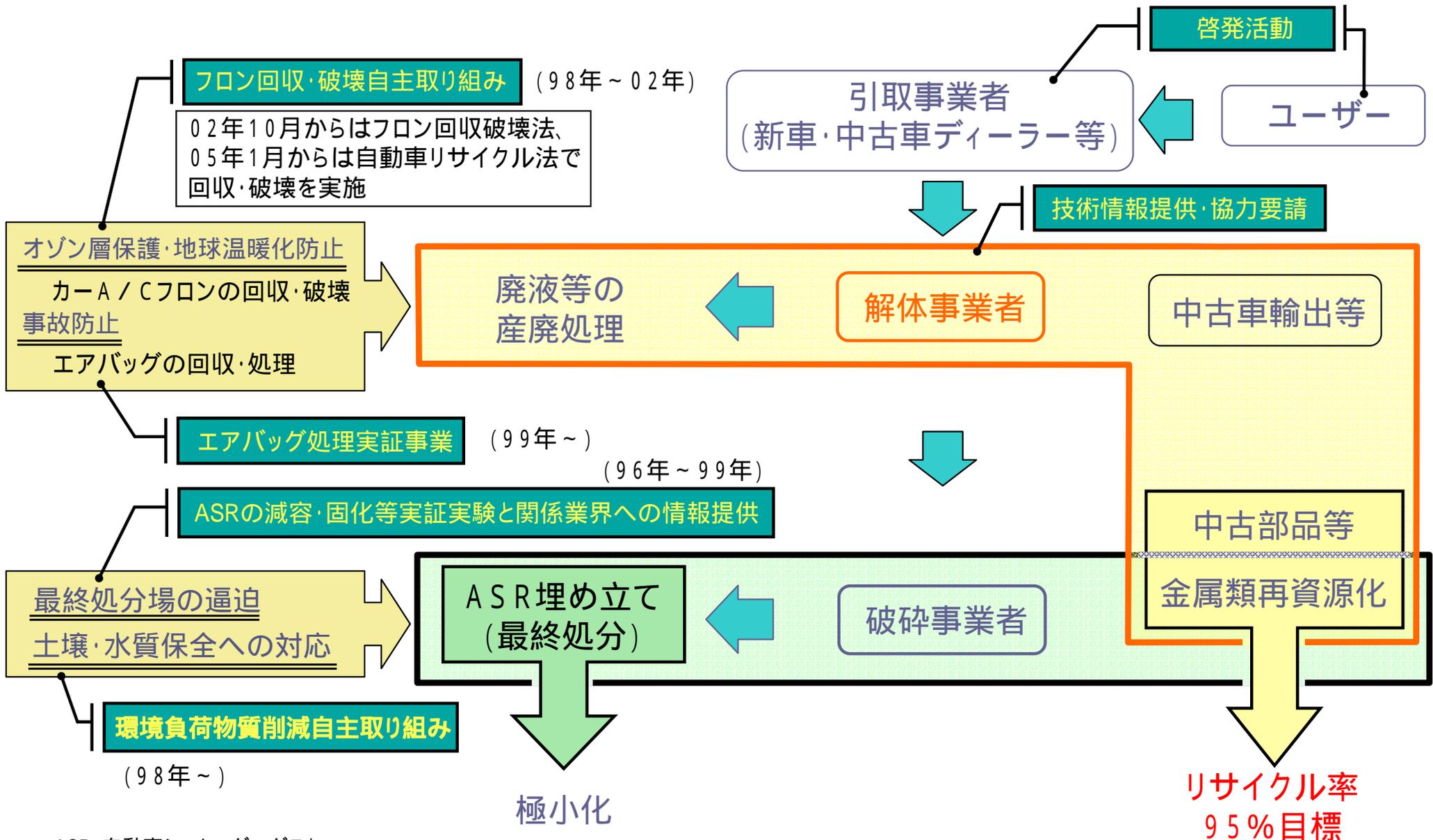
修理時に交換するバンパーを回収し再利用。  
業界全体では約160万本/年を回収(04年度)。



出典: マツダ

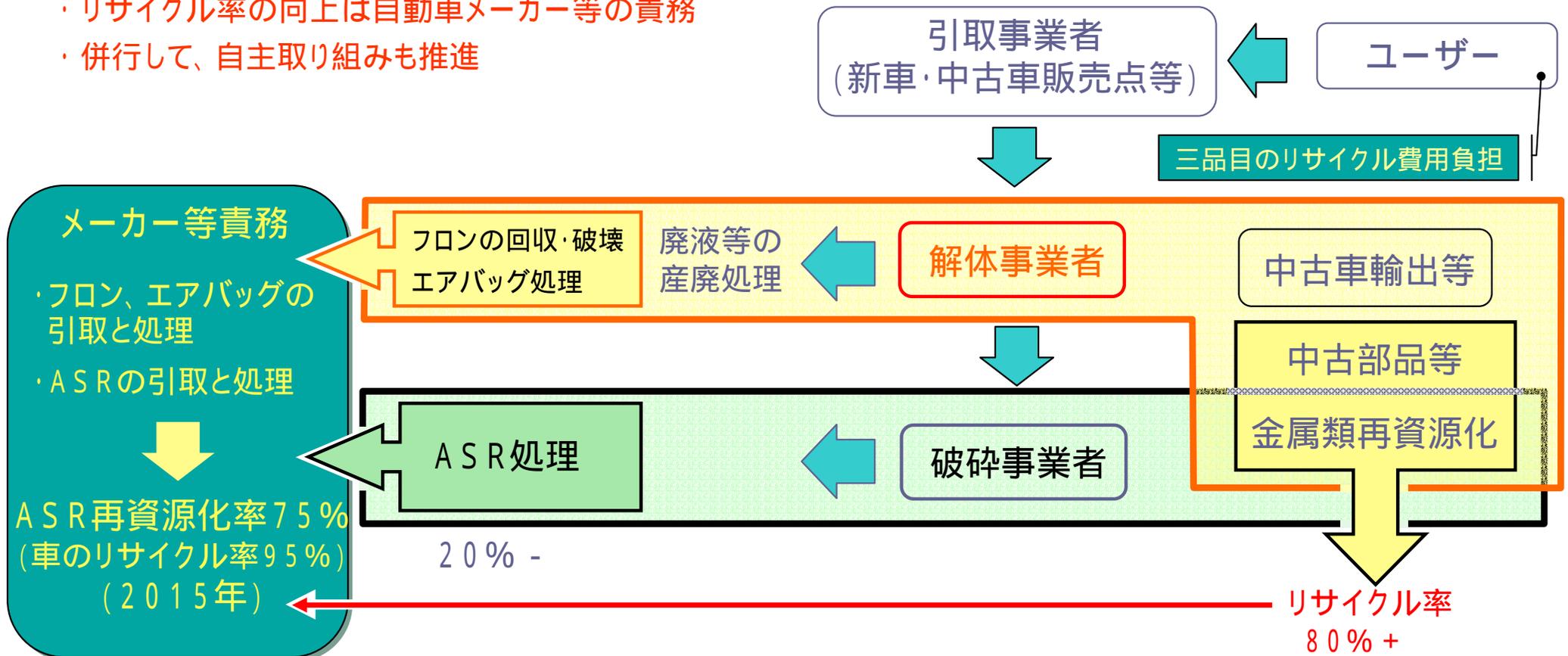
# 使用済車処理段階での3R

自動車リサイクル法施行以前より様々な自主取組を推進



# 使用済車処理段階での3R (2005年1月より自動車リサイクル法が本格スタート)

- ・ フロン、エアバッグ、ASRの三品目の引取を自動車メーカー等に義務付け
- ・ 三品目のリサイクル費用はユーザー負担
- ・ 解体事業者の施設要件を明確化するとともに、許可制にするなど環境保全面も十分に配慮
- ・ リサイクル率の向上は自動車メーカー等の責務
- ・ 併行して、自主取り組みも推進



- ・ 使用済二輪車のリサイクル
- ・ 商用車架装物のリサイクル
- ・ 環境負荷物質全廃・削減自主取り組み (鉛、水銀、六価クロム、カドミウムの4品目、EU指令と同等の取り組み)

ASR:自動車シュレッダーダスト    メーカー等    自動車メーカー、輸入車ディーラー

## 自動車リサイクル法と3R

### 資源の有効利用

### 埋め立て処分場の極小化

- ・ASR、フロン類、エアバッグ類の引取りと適正処理を自動車メーカー等に義務づけ
- ・対象は殆どすべての四輪自動車

### 不法投棄の防止

- ・使用済車処理事業の登録・許可制化
- ・自動車の登録・検査制度とリンクしたリサイクル料金の預託(前払い方式)
- ・電子マニフェストによる、使用済車処理の管理

### 従来のリサイクルシステム機能の再生

- ・ASR、フロン類、エアバッグ類の引取りと適正処理は自動車メーカー等に義務づけ  
(解体事業者、破砕事業者の負担軽減)

### 関係事業者の環境保全強化

- ・使用済車処理事業の登録・許可制化
- ・施設要件の強化

## 2005年度の使用済自動車処理実績1

自動車リサイクル法は順調に稼働中

(万台)

	05年度計	
引き取り台数	304.9	[352.0]
フロン	211.5	[228.1]
エアバッグ	46.2	[049.9]
ASR	295.8	[322.2]

注:[ ]内は、05年1月法施行後累計

## 2005年度の使用済自動車処理実績2

ASRのリサイクル率は平均で約62%、  
車全体では92%程度のリサイクル率を達成

	リサイクル率								平成17年度の収支の状況(百万円)		
	自動車破砕残さ			エアバッグ類			フロン類		払渡しを 受けた預託金	再資源化等 に要した費用	収支
	平成16年度	平成17年度		平成16年度	平成17年度		平成16年度	平成17年度			
	(%)	(%)	(千台)	(%)	(%)	(千台)	(千台)	(千台)			
いすゞ自動車(株)	66.5	65.7	24	91.9	93.6	1.5	1	13	191	265	△74
スズキ(株)	59.6	65.2	220	92.6	93.4	11	10	154	1,110	1,189	△79
ダイハツ工業(株)	49	56.0	193	94	93.0	14	9	133	993	1,056	△62
トヨタ自動車(株)	50	57	806	95	93	122	56	655	6,746	7,115	△369
日産自動車(株)	64	67.9	531	94.5	93.5	146	36	445	4,623	4,852	△229
日産ディーゼル工業(株)	69.1	63.0	3	91.6	94.7	0.04	0.1	1	38	57	△19
日野自動車(株)	50	48.0	6	—	94.0	0.1	0.1	2	75	178	△103
富士重工業(株)	66.9	70.0	148	94.4	93.5	16	7	108	1,036	1,078	△42
本田技研工業(株)	53.2	59.6	262	94.5	93.5	50	15	203	2,029	2,026	3
マツダ(株)	56	63.0	168	95	93.0	8	10	130	1,273	1,345	△72
三菱自動車工業(株)	59.3	64.2	261	94.5	93.5	29	15	197	1,857	1,971	△115
三菱ふそうトラック・バス(株)	60.7	60.4	15	—	93.0	0.2	0.3	5	132	185	△53
アウディジャパン(株)	54.4	58.0	4	100	93.3	1	0.2	3	48	51	△3
ダイムラー・クライスラー日本(株)	58	64	5	93	93	2	0.2	4	70	164	△94
ピー・エム・ダブリュー(株)	53	56	7	95	94	2	0.3	5	83	102	△19
ピー・エー・ジー・インポート(株)	63.2	64.8	5	94.3	93.5	2	0.2	4	63	64	△2
フォード・ジャパン・リミテッド(株)	61.4	66.1	22	92.6	93.1	7	2	19	238	238	0
フォルクスワーゲンジャパン(株)	50.8	55.4	16	95.7	93.5	7	1	13	198	206	△9
プジョー・ジャポン(株)	57	56	2	—	93	1	0.1	1	20	41	△21

ASR(シュレッダーダスト)の  
再資源化基準

2005～2009年度  
30%以上(85%以上)

2010～2014年度  
50%以上(90%以上)

2015年度以降  
70%以上(95%以上)

( )内は使用済車全体の  
推定リサイクル率

出典:産業構造審議会  
中央環境審議会  
合同会議資料(06年7月)

注:05年度ASR引き取り総重量は約48万トン(出典:自動車メーカー、輸入事業者ホームページ)

## 参考：不法投棄、不適正保管も大幅に減少

自動車リサイクル法の施行、国による不法投棄対策の強化、スクラップ金属相場の好転等により不法投棄、不適正保管は大幅に減少

単位：台

	不適正保管	不法投棄
04年9月	195,860	22,499
05年9月	62,468	14,486
06年3月	44,072	12,733

## 使用済車処理段階における自動車メーカーの取り組み事例

### フロントガラス回収法

丸のこによりガラスを切断し、回収

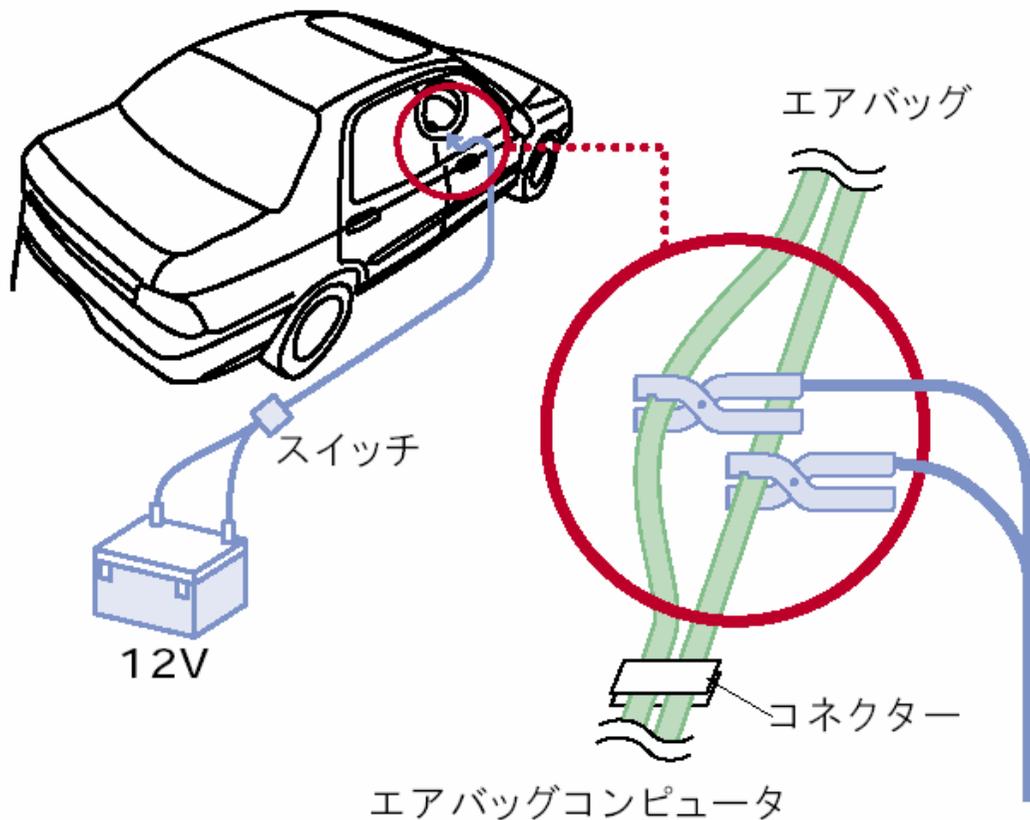


「超硬金属チップ採用  
ノコ歯」と「ボディ安  
全カバー部ベアリング  
化」による耐久性向上

出典：富士重工業

# 使用済車処理段階における自動車メーカーの取り組み事例

## ■ エアバッグ車上作動用ツール



業界共通エアバッグ一括展開用車上作動ツールの開発



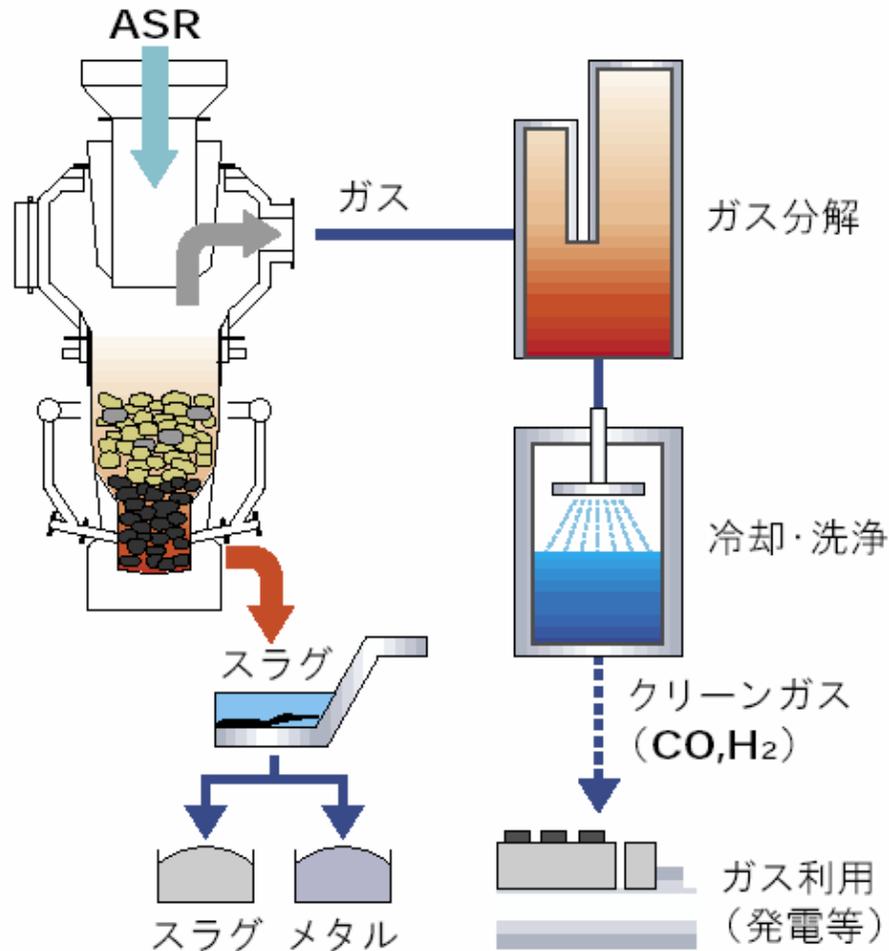
ダッシュボード取り外しツールの開発



解体用転倒機の開発

# 使用済車処理段階における自動車メーカーの取り組み事例

## ■ ASRサーマルリサイクル実証プラント工程概要



# 使用済車処理段階における自動車メーカーの取り組み事例

## 商用車架装物のリサイクル施設の情報提供

### 全国の協力事業者分布地図

商用車架装物のリサイクル・適正処理の協力事業者は、凡例の種別ごとに日本地図にプロットしてあります。日本地図は全国を7ブロックに分類してありますので、ご覧になりたいブロックの見出しをクリックしてください。

なお、協力事業者リストは、随時更新しておりますので、リストへの掲載を希望される方は、協力事業者募集内容をご覧の上、お問い合わせください。

